

学力向上推進事業

学 力 向 上 推 進 協 議 会 報 告 書

～ 誰一人取り残さない教育の実現に向けて ～

静岡県学力向上推進協議会

令和 7 年 3 月

巻 頭 言

現行の学習指導要領は、「社会に開かれた教育課程」を理念に掲げ、「何を学ぶか」「何ができるようになるか」を明確化するとともに、「どのように学ぶか」の重要性を強調し、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を求めています。

また、子供たちを取り巻く社会状況は、予測不可能で激しく変化を続け、グローバル化やデジタル化が急速に進展しています。小中学校の授業を中心とした教育活動においては、多様な他者と当事者意識を持って対話を繰り返し、問題や課題を発見したり解決したりできる「持続可能な社会の創り手」を育成することが重要です。

静岡県では、令和4年3月に「ふじのくに『有徳の人』づくり大綱」が示され、「誰一人取り残さない教育の実現」を目指した取組が推進されています。各学校では、児童生徒の多様な特性や学習状況等に応じて学習教材や活動内容を工夫するとともに、一人一台端末を活用しながら「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり」を推進していることと思います。

このような状況の中、本年度も全国学力・学習状況調査が実施され、国語、算数・数学の教科調査においては、情報と情報の関係を捉えながら自分の考えをまとめる力や日常生活の問題場面に照らし合せて妥当性を判断する力が求められる問題が出題されました。また、一人一台端末を学習ツールとして日常的に活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図るとともに、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善を推進する文部科学省から寄せられたメッセージと捉えることができるものでした。

質問調査は、初めて全小中学校でC B T方式により実施されました。教科調査とのクロス集計からは、学ぶ意義を見出し、主体的に学びに向かうことができる子供の育成が大切であることが明らかになりました。

静岡県教育委員会では令和5・6年度の2年間、『誰一人取り残さない教育』の実現に向けた授業づくり、学級づくり調査研究事業を実施してきました。本報告書には、県内5校の調査研究指定校の実績報告書がまとめられています。研究から見てきたこととして、育成を目指す資質・能力の三つの柱である「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成することが重要であることです。本報告書に記載されている授業づくりや学級づくり等の具体的な取組事例を参考にしながら、各学校の授業改善や取組の更なる推進に役立てていただけますと幸いです。

今後も変化を続ける教育環境に対応し、誰一人取り残さない教育の実現に向けて本報告書が静岡県の子供たち一人一人の成長の一助となることを願うばかりです。

静岡県学力向上推進協議会
会長 村山 功

学力向上推進協議会報告書について

1 本報告書発行の意義

本報告書は、静岡県内の学力向上推進事業について、主に以下の3点を報告するとともに、静岡県内の学力向上に係る取組を広く周知することで、各学校において学校改善・授業改善を促すことを目途にしている。

- ・令和6年度全国学力・学習状況調査の概要
- ・令和6年度全国学力・学習状況調査の各教科調査、児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査の分析と授業改善案
- ・調査研究事業における調査研究指定校及び調査研究推進地区教育委員会の取組

2 学力向上推進事業における取組の検証について

学力向上推進事業における取組（全国学力・学習状況調査分析会、調査研究事業等）を学力向上推進協議会で協議し、検証を行った。

本報告書の中には、全国学力・学習状況調査の分析と授業改善案、調査研究指定校及び調査研究推進地区教育委員会の取組が報告されており、いずれも学力向上推進協議会で協議・検証された内容となっている。

令和6年度学力向上推進事業スキーム（全体構想図）



◇ ◇ 目次 ◇ ◇

- ・巻頭言 学力向上推進協議会会長 村山 功 氏
- ・学力向上推進協議会報告書について

1 令和6年度全国学力・学習状況調査について 1

- (1) 調査の目的
- (2) 調査実施日・実施学校数・実施人数（政令市、特別支援学校を含む）
- (3) 調査内容
- (4) 調査結果の概要

2 調査問題及び結果の分析 4

- (1) 各教科調査の観点別平均正答率等
- (2) 教科調査問題の概要及び結果の状況と授業改善に向けて
小学校国語、中学校国語、小学校算数、中学校数学
- (3) 質問調査の結果分析
主に学習に対する興味・関心等に関すること、主に授業に関すること

3 調査研究事業における取組 16

- (1) 実施要領
- (2) 指定校、推進地区教育委員会の取組(実績報告書)
 - ア 共通理解事項
 - イ 函南町
 - (ア) 函南町立丹那小学校
 - (イ) 函南町教育委員会
 - ウ 下田市
 - (ア) 下田市立下田中学校
 - (イ) 下田市教育委員会
 - エ 掛川市
 - (ア) 掛川市立横須賀小学校
 - (イ) 掛川市立大淵小学校
 - (ウ) 掛川市立大須賀中学校
 - (エ) 掛川市教育委員会

掛川市立横須賀小、大淵小、大須賀中学校は、
「若つつじ学園」として、中学校区を指定

1 令和6年度全国学力・学習状況調査について

(1) 調査の目的

文部科学省では、平成19年度から開始した全国学力・学習状況調査（以下、本調査）の目的を、次のように掲げている。

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

本調査は、実施要領に示されているとおり、「測定できるのは学力の特定の一部分ではある」が、児童生徒の学力の3要素が確かに身に付いているかを把握するために客観性の高い重要な調査と言える。

(2) 調査実施日・実施学校数・実施人数（政令市、特別支援学校を含む）

実施日：令和6年4月18日（木）

実施学校数：小学校480校、中学校261校

(3) 調査内容

ア 教科に関する調査

小学校：国語、算数、中学校：国語、数学

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(ア) 児童生徒に対する調査 … 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等

(イ) 学校に対する調査 … 指導方法、人的・物的な教育条件の整備の状況等

(4) 調査結果の概要

ア 学力に関する調査（教科ごとの平均正答率 単位：％）

小学校			中学校		
区 分	静岡県	全 国	区 分	静岡県	全 国
国 語	67.2	67.7	国 語	59.0	58.1
算 数	61.6	63.4	数 学	55.3	52.5

イ 学習状況に関する調査

(7) 児童生徒質問調査の主な結果

※質問項目の[]内は、中学校への質問 (肯定的な回答の割合 単位は%)

質問項目	小学6年生			中学校3年生		
	静岡県	前回比	全国比	静岡県	前回比	全国比
9 自分には、よいところがあると思いますか	84.9	-0.2	0.8	84.6	4.0	1.3
11 将来の夢や目標を持っていますか	83.2	0.9	0.8	66.9	0.4	0.6
13 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.7	-0.6	±0.0	96.1	0.6	0.4
17 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	77.8	-1.1	2.0	79.1	-0.4	2.9
25 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	83.9	6.7	0.4	78.7	11.6	2.6
27 5年生まで[1、2年生のとき]に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか[週3回以上]	65.5	-2.5	6.0	72.0	2.9	7.6
28 5年生まで[1、2年生のとき]の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか	-	-	-	-	-	-
(2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる	92.4	新規	0.3	95.3	新規	1.4
(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	79.7	新規	0.5	79.1	新規	1.4
(6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	86.9	新規	0.8	88.1	新規	1.9
30 5年生まで[1、2年生のとき]に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	81.9	2.9	±0.0	81.2	1.2	0.9
33 学級の友達[生徒]との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	86.4	新規	0.1	87.8	新規	1.7
34 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	80.3	3.0	-0.5	76.5	9.8	-1.4
35 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか	82.9	新規	-0.8	78.1	新規	-0.9
37 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	92.0	新規	0.4	93.3	新規	1.0
38 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	79.3	5.2	-2.0	84.9	7.3	2.7

(イ) 学校質問調査の主な結果

※質問項目の[]内は、中学校への質問 (肯定的な回答の割合 単位は%)

質問項目	小学校			中学校		
	静岡県	前回比	全国比	静岡県	前回比	全国比
13 児童[生徒]の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	98.9	-0.1	1.9	99.3	0.4	2.8
14 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	98.1	0.3	0.8	94.0	3.0	2.2
25 調査対象学年の児童[生徒]は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	87.1	-1.0	-1.1	84.4	-3.1	-4.0
27 調査対象学年の児童[生徒]は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	88.4	-1.1	1.2	86.4	2.4	-3.3
28 調査対象学年の児童[生徒]は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか	95.2	新規	1.6	96.8	新規	0.7
29 調査対象学年の児童[生徒]は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか	59.3	新規	-1.9	54.2	新規	-1.1
34 調査対象学年の児童[生徒]に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	87.1	-3.0	-0.3	88.8	2.1	2.2
35 調査対象学年の児童[生徒]に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	86.3	-0.7	0.6	78.0	-1.3	-0.6
36 調査対象学年の児童[生徒]に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	97.1	2.0	5.2	96.4	-0.5	5.5
38 調査対象学年の児童[生徒]に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童[生徒]が意思決定できるような指導を行っていますか	93.6	-0.2	1.0	93.3	3.4	0.9
58[62] 調査対象学年の児童[生徒]が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童[生徒]一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか [週3回以上]	57.3	4.1	2.2	59.3	9.3	7.4
68[72] 前年度までに、近隣等の中学校[小学校]と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか	73.5	-1.4	9.5	76.1	-3.2	7.1
70[74] コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか	93.3	2.6	4.4	89.2	10.2	5.1

2 調査問題及び結果の分析

(1) 各教科調査の観点別平均正答率等

小学校

R 6 平均正答率(%)			
	静岡県	全国	差
国語	67.2	67.7	-0.5
算数	61.6	63.4	-1.8

【国語】

分類		区分	対象 問題数	R 6 平均正答率(%)		
				静岡県	全国	差
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	4	63.6	64.4	-0.8
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	1	86.9	86.9	0.0
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	73.9	74.6	-0.7
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	60.2	59.8	0.4
		B 書くこと	2	69.1	68.4	0.7
		C 読むこと	3	68.8	70.7	-1.9
評価の観点	知識・技能		6	69.2	69.8	-0.6
	思考・判断・表現		8	65.7	66.0	-0.3
	主体的に学習に取り組む態度		0			
問題形式	選択式		10	69.7	69.9	-0.2
	短答式		2	58.3	59.7	-1.4
	記述式		2	63.6	64.6	-1.0

【算数】

分類		区分	対象 問題数	R 6 平均正答率(%)		
				静岡県	全国	差
学習指導要領の領域	A 数と計算		6	64.2	66.0	-1.8
	B 図形		4	64.1	66.3	-2.2
	C 測定		0			
	C 変化と関係		3	49.4	51.7	-2.3
	D データの活用		4	60.9	61.8	-0.9
評価の観点	知識・技能		9	70.6	72.8	-2.2
	思考・判断・表現		7	50.1	51.4	-1.3
	主体的に学習に取り組む態度		0			
問題形式	選択式		5	72.9	75.3	-2.4
	短答式		7	60.5	62.0	-1.5
	記述式		4	49.4	51.0	-1.6

中学校

R 6 平均正答率(%)			
	静岡県	全国	差
国語	59.0	58.1	0.9
数学	55.3	52.5	2.8

【国語】

分類		区分	対象 問題数	R 6 平均正答率(%)		
				静岡県	全国	差
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	3	58.3	59.2	-0.9
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	2	60.5	59.6	0.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	76.3	75.6	0.7
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	61.4	58.8	2.6
		B 書くこと	2	66.6	65.3	1.3
		C 読むこと	4	49.0	47.9	1.1
評価の観点	知識・技能		6	62.1	62.0	0.1
	思考・判断・表現		9	57.0	55.4	1.6
	主体的に学習に取り組む態度		0			
問題形式	選択式		9	61.4	61.0	0.4
	短答式		3	62.7	61.8	0.9
	記述式		3	48.3	45.5	2.8

【数学】

分類		区分	対象 問題数	R 6 平均正答率(%)		
				静岡県	全国	差
学習指導要領の領域	A 数と式		5	55.3	51.1	4.2
	B 図形		3	43.4	40.3	3.1
	C 関数		4	62.2	60.7	1.5
	D データの活用		4	57.4	55.5	1.9
評価の観点	知識・技能		11	65.3	63.1	2.2
	思考・判断・表現		5	33.3	29.3	4.0
	主体的に学習に取り組む態度		0			
問題形式	選択式		5	60.3	58.5	1.8
	短答式		6	69.5	67.0	2.5
	記述式		5	33.3	29.3	4.0

(2) 調査問題の概要及び結果の状況と授業改善に向けて

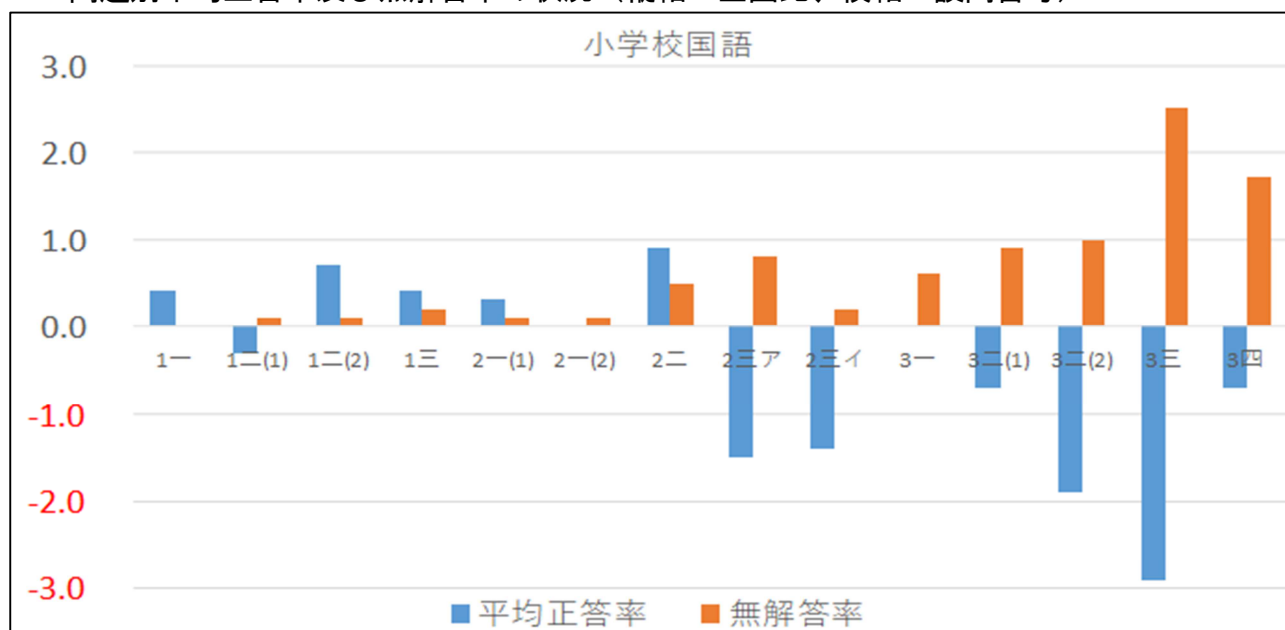
【小学校国語】

1 調査問題の概要及び結果の状況

小学校国語は、「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」から4問、「情報の扱い方に関する事項」から1問、我が国の言語文化に関する事項から1問、「思考力、判断力、表現力等」の「A 話すこと・聞くこと」から3問、「B 書くこと」から2問、「C 読むこと」から3問、計14問が出題された。また、出題形式は選択式が10問、短答式が2問、記述式が2問であった。

結果は、全国の平均正答率をやや下回った。学習指導要領の内容（指導事項や領域）で見ると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「B 書くこと」「C 読むこと」に係る一部の問題に、課題が見られた。

2 問題別平均正答率及び無解答率の状況（縦軸：全国比、横軸：設問番号）



- ・平均正答率は、読むことに係る問題の多くが全国を下回り、漢字の定着にも課題がある。
- ・無解答率は、後半の問題ほど全国より高く、特に問題3三（記述式）に課題がある。

3 課題の見られた問題

問題番号 領域 問題形式	正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	静岡県	全国		
2二 [B] 記述式	57.5	56.6	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く	目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる
2三ア [(1)] 短答式	41.9	43.4	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す（きょうぎ）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる
3二(2) [C] 選択式	70.6	72.5	【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる
3三 [C] 記述式	69.7	72.6	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる

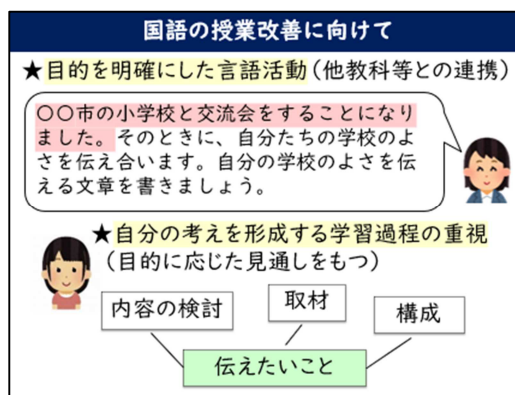
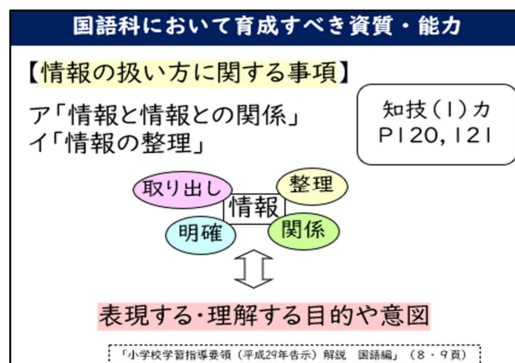
4 授業改善に向けて

自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題では、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にして自分の考えが伝わるように事実と感想、意見とを区別して文章を書くことが求められている。学習指導要領解説においては、国語科で育成すべき資質・能力のうち、書くことの「題材の設定、情報の収集、内容の検討」と「考えの形成、記述」の指導事項に当たる。また、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりするためには、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことが大切となる。

授業で言語活動に取り組む際には、自分の考えを表現したくなるような場を設定したり、目的を明確にしたりすることを大切にして、子供が見通しをもって取組めるように学習過程を意識して単元を構想する必要がある。

文章を書く活動では、子供一人一人の学習状況を捉え、実態に応じて指導することが大切となるため、文章を子供同士で読み合って、書き表し方の工夫について話し合う場面を設定することも考えられる。書いた文章を友達と確かめ合ったり、自分でもう一度読み直したりすることで、伝えたいことが明確になっているか、促すこともある。見直す観点がわからない場合には、目的に立ち返るような教師の言葉が大切になる。

「読むこと」に関する記述式問題における無回答率の高さを分析すると、解答を途中であきらめている子供の割合が高くなっている。授業では、「考えを形成する学習活動」を重視し、文章を読んで分かったことや考えたことを伝えたり、文章にまとめたりする言語活動を取り入れていくことが効果的であると考えられる。質問調査でも、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いている子供の正答率が高いことから、文章を書く機会を積極的に取り入れるよう授業改善を図る必要があると考える。

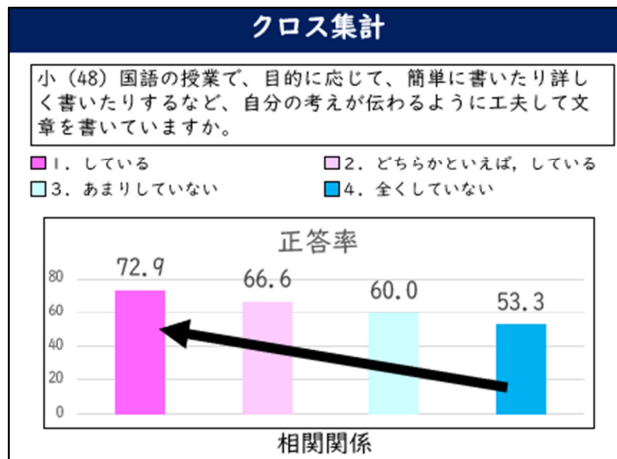


本年度の結果から考えられること

学習指導要領の内容	問題形式	県正答率 % (全国正答率)	県無回答率 % (全国無回答率)
2 二 書くこと	記述式	57.5 (56.6)	5.4 (4.9)
3 二 (1) 読むこと	選択式	66.2 (66.9)	3.5 (2.6)
3 二 (2) 読むこと	選択式	70.6 (72.5)	3.9 (2.9)
3 三 読むこと	記述式	69.7 (72.6)	15.1 (12.6)

ポイント

【読むこと】では、文章を読み、分かったことや考えたことを伝えたり、文章にまとめたりする。



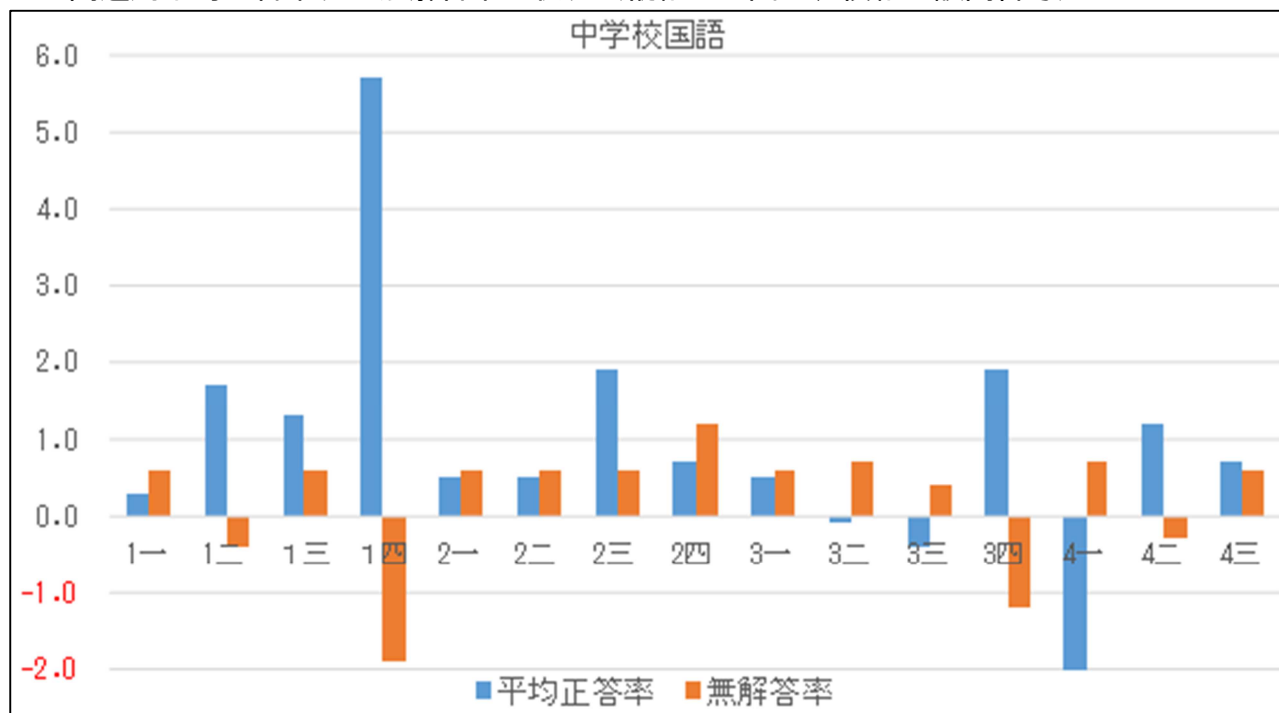
【中学校国語】

1 調査問題の概要及び結果の状況

中学校国語は、「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」から3問、「情報の扱い方に関する事項」から2問、「我が国の言語文化に関する事項」から1問、「思考力、判断力、表現力等」の「A 話すこと・聞くこと」から3問、「B 書くこと」から2問、「C 読むこと」から4問が出題された。また、出題形式は選択式が9問、短答式が3問、記述式が3問の計15問であった。

結果は、全国の平均正答率を上回った。しかし、学習指導要領の内容（指導事項や領域）で見ると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「B 書くこと」に課題が見られた。

2 問題別平均正答率及び無解答率の状況（縦軸：全国比、横軸：設問番号）



- ・平均正答率は、全体的に全国の平均正答率を上回っている。
- ・無解答率は、全体的には全国の無解答率と同等である。

3 課題の見られた問題

問題番号 領域 問題形式	正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	静岡県	全国		
3 三 〔1〕短答式	68.4	68.8	漢字を書く（みちたりた）	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる
3 四 〔B〕記述式	51.2	49.3	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する	表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる
4 一 〔1〕選択式	52.8	54.9	短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する	表現の技法について理解しているかどうかをみる

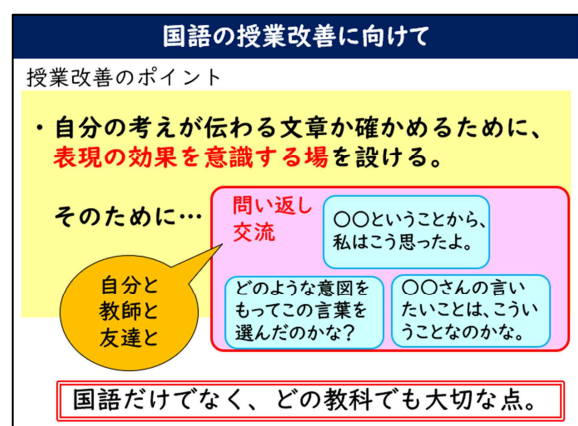
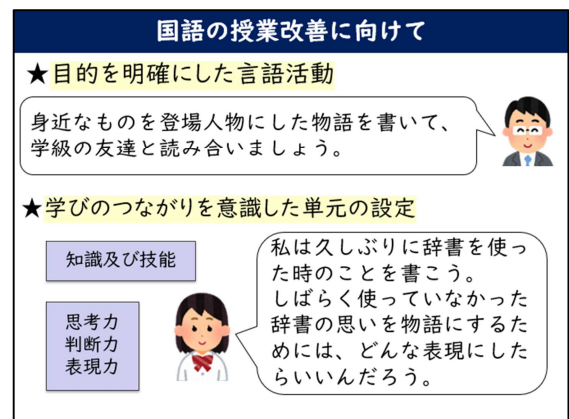
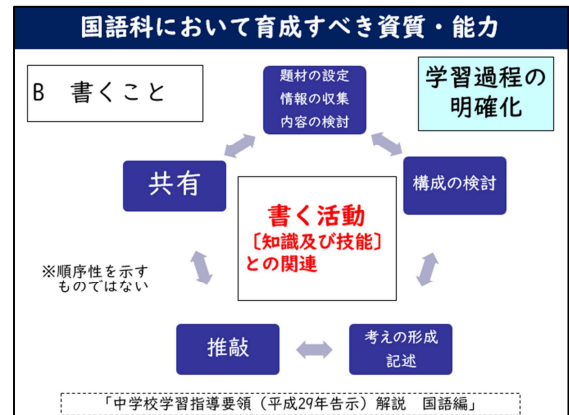
4 授業改善に向けて

表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する問題では、物語の終わりの場面を、表現の効果を踏まえながら工夫して書くことが求められている。

「書くこと」には、右のような学習過程があるが、順序性を示すものではないため、これらの学習過程を必要に応じていたり来たりしながら、実際に文章を書く活動を多く取り入れることが大切である。その際、〔知識及び技能〕の各指導事項との関連を図るとともに、子供が日常の書く活動に生かすことを意識しながら学習できるように、意図的・計画的に指導することが重要となる。

単元の学習においては、目的を明確にした言語活動を設定するとともに、子供が学習の見通しを立てられるように、学習過程を明確にし、学びのつながりを意識した単元の設定や「知識及び技能」との関連を図ることが有効であると考える。自分の考えが伝わる文章になるように工夫する際には、「構成の検討」はもちろん、語句や表現の働きを確かめながら、より効果的な語句や表現を選ぶことが必要になる。その際、自分が読み手に何を伝えたいのかを明確にし、その目的に応じた表現の工夫ができているか、確かめることができるような指導・支援を考える。学習指導要領解説では、知識及び技能は、思考力、判断力、表現力等に示されている事項の指導を通して指導することを基本としている。学んだ知識を活用して説明するように促すなど、身につけた知識を活用できる場を設定することも大切である。

自分の考えが伝わる文章になっているかを確かめるためには、学習の中で、書いた文章を読み合う活動を取り入れることが考えられる。自分が伝えたいことが伝わるように表現が工夫されているか、問い返しや交流を行う中で子供の考えが広がり、深まっていくことを意識したい。



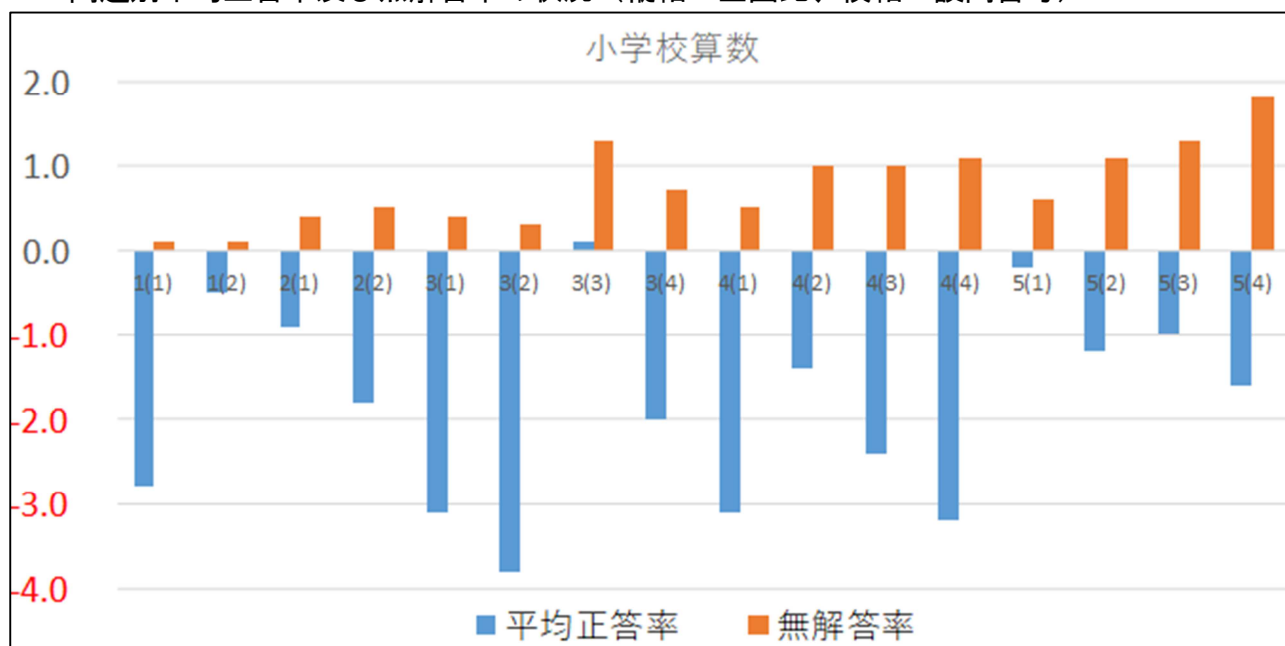
【小学校算数】

1 調査問題及び結果の状況

算数は、領域の「A 数と計算」から6問、「B 図形」から4問、「C 変化と関係」から3問、「D データの活用」から4問の、計16問（内1問はAとDを兼ねた問題）が出題された。また、出題形式は選択式が5問、短答式が7問、記述式が4問であった。

結果は、学習指導要領で示された内容の全領域で全国の平均正答率を下回った。特に「B 図形」「C 変化と関係」、評価の観点の「知識・技能」に係る問題で課題が見られた。

2 問題別平均正答率及び無解答率の状況（縦軸：全国比、横軸：設問番号）



- ・平均正答率は、全体的に全国の平均正答率を下回った。
- ・無解答率は、後半の問題ほど全国の無解答率より高い。

3 課題の見られた問題

問題番号 領域 問題形式	正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	静岡県	全国		
1 (1) [A] 選択式	59.3	62.1	問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる
3 (1) [B] 選択式	82.4	85.5	作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ	直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる
3 (2) [B] 選択式	67.5	71.3	円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる
4 (1) [A] 短答式	67.0	70.1	$540 \div 0.6$ を計算する	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる
4 (3) [C] 記述式	28.6	31.0	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる
4 (4) [C] 短答式	50.9	54.1	家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く	速さの意味について理解しているかどうかをみる

4 授業改善に向けて

問題3(2)のねらいは、図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目し、図形の構成の仕方や図形の性質について考察することと、直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係についての理解度をみることである。学習指導要領解説では、目標(1)の中で、基礎的・基本的な概念や性質などを理解することと記している。また、図形の性質の考察においては、観察や構成などの活動を通して性質を確かめることや図形を構成する要素及び位置関係に着目し、図形の性質を見いだすこと、その性質を基に既習の図形を捉え直すことと示している。

算数の調査問題等の分析から

算数3(2) 静岡:67.5 全国:71.8

(2) 図1のような円柱があります。

図1の円柱の展開図はどれですか。
下の1から4までの中から、最もふさわしいものをついで、その番号を書きましょう。

図1の円柱を、図2のように切り開くと、展開図ができます。

図1 図2

1 2 3 4

算数科の授業改善に向けて

図形領域の指導に当たっては

- ・ 既習の図形と比較することを通して、概念の理解を深める。
- ・ ICTの活用と具体物を観察・操作する活動とを意図的、計画的に行う。

令和5年度の資料等も参考に

授業場面では

11

実際の授業場面では、示されたいろいろな立体図形について、具体物を観察・操作する活動を通して、図形の構成要素である面に着目して考察していく。複数の立体を考察することで、共通点を見いだしたり、相違点に気付いたりするなど、統合的・発展的に考察することが考えられる。このような観察、操作するなどの活動を通して、既習事項をもとに捉え直すことが理解を深めることにつながると考えられる。

算数の授業改善に向けて

授業場面では

図形を観察、操作する活動を通して

鉛筆立ての側面に色紙を貼ろう。

どのような紙が何枚必要なのかな。

展開図を書けばわかるんじゃないかな。

側面はすべて長方形だね。側面の長方形の横の長さはどうなっているのかな。

複数の図形を観察、操作するなどの活動を通して、図形の構成要素に着目して考察したり、捉え直すことで理解を深める。

12

算数の授業改善に向けて

授業場面では

具体物を操作する活動を通して

円柱を切って展開図にしてみよう。

円周の長さと側面の長さが等しくなってるね。

円の大きさが長さはどのように変わるのかな。

いくつか作って調べてみよう。

立体図形と平面図形を関連付けて考えることを通して、実感を伴って理解できるようにする。

13

なお、質問調査とのクロス集計から、「ICT機器を活用することで学習内容がよく分かる」と肯定的に答えた児童の方が正答率が高くなっている。しかし、ICT機器の活用で分かったつもりになっていて、深い理解につながっていないことが考えられる。

図形領域の指導においては、既習の図形と比較することを通して概念についての理解を深めることや、具体物を観察、操作する活動を通して実感を伴った理解を促すことが必要である。また、ICT機器と具体物を意図的・計画的に活用して学ぶことが大切である。

問題4（1）は、日常生活の問題を解決するために、二つの数量の関係について考察することをねらいとしている。また、日常生活の事象から問題を見いだすこと、考察した結果を元の事象に戻して考え、得られた結果を吟味できるかということもねらいとしている。学習指導要領解説では、目標（2）の中で、日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力を養うことと示している。なお、日常の事象を扱う際は、事象を理想化したり、単純化したりして課題を定式化することや、日常生活の問題場面に照らし合わせて妥当かどうか判断し結論を得ることが大切であるとしている。

算数の調査問題等の分析から

算数4(1) 静岡:67.0 全国:70.1

(1) あいなさんは、家から学校までの歩数を求めます。
家から学校までの道のりは、540 m です。あいなさんの歩はばを0.6 m とします。



家から学校までの歩数は、 $540 \div 0.6$ の式で求めることができます。
 $540 \div 0.6$ を計算しましょう。

正答 900

算数の調査問題等の分析から

算数4(1) 解答類型



児童の解答	反応率
900 (歩)	67.0
90 (歩)	18.6
9 (歩)	4.2

家から学校までの540mの道のりを90歩や9歩で到着する？

生活とのつながりや体験を通じた学びが理解を深めるために必要なのではないかな？

22.8%

児童の解答類型から、90歩、9歩と答えた児童が22.8%おり、小数の除法が理解できるように支援するだけでなく、生活とのつながりや体験を通じた学びが必要であると考えられる。

授業場面では、子供の考えや思いなどを捉えつつ、身の回りのものを取り上げる。ただ、身の回りの事象の中には、そのままでは解決が難しい問題もあるため、条件や数値を簡単にするなど考えやすいように単純化したり、平均の考えを用いて理想化したりすることで、問題解決に向けて見通しが立てやすくなると考えられる。このような経験を積むことにより、学んだことを日常生活の中のいろいろな場面で活用できるという実感を得ることにもつながる。また、計算を間違えている子供に対して、計算方法の改善を促すように支援する以外にも、日常生活の問題場面に照らし合わせて判断するように促すことが考えられる。

このように、子供たちが身の回りの事象から問題を見いだす活動を重視し、子供たちが事象を数理的に捉える場を設定することで、問いがより自分ごととなることが考えられる。また、得られた結果を実際の問題場面に照らし合わせて考える場を設定することで、結果を振り返ってよりよく問題を解決しようとする態度が育成されることが期待される。

算数の授業改善に向けて

授業場面では 子供の考えや思いを捉えて

学校まで何歩で行けるのかな？

家から学校まで540mだよ。1歩あたりの歩幅が何mか知りたいね。

でも、人によって歩幅は違うし、途中で坂道もあるから歩幅は変わるから難しそう。

とりあえず坂道は考えないことにして、1歩を1mと考えたらどうかな？

どの道も同じ歩幅で歩くことにして、何歩か歩いて平均を求めてみれば良いのでは？

単純化 **理想化**

理想化や単純化を通して実感に近付ける

算数の授業改善に向けて

授業場面では

計算してみたら9歩になったよ。

教師が問い返す

本当に学校まで9歩で行けるのかな？

学校までの道のりを考えると、もっと歩数がありそうだな。

9歩が何mになるのか実際に測ってみよう。

日常の事象を数量の関係に着目し、筋道を立てて考えるとともに、得られた結果を常に振り返って吟味しようとする態度が育まれる。

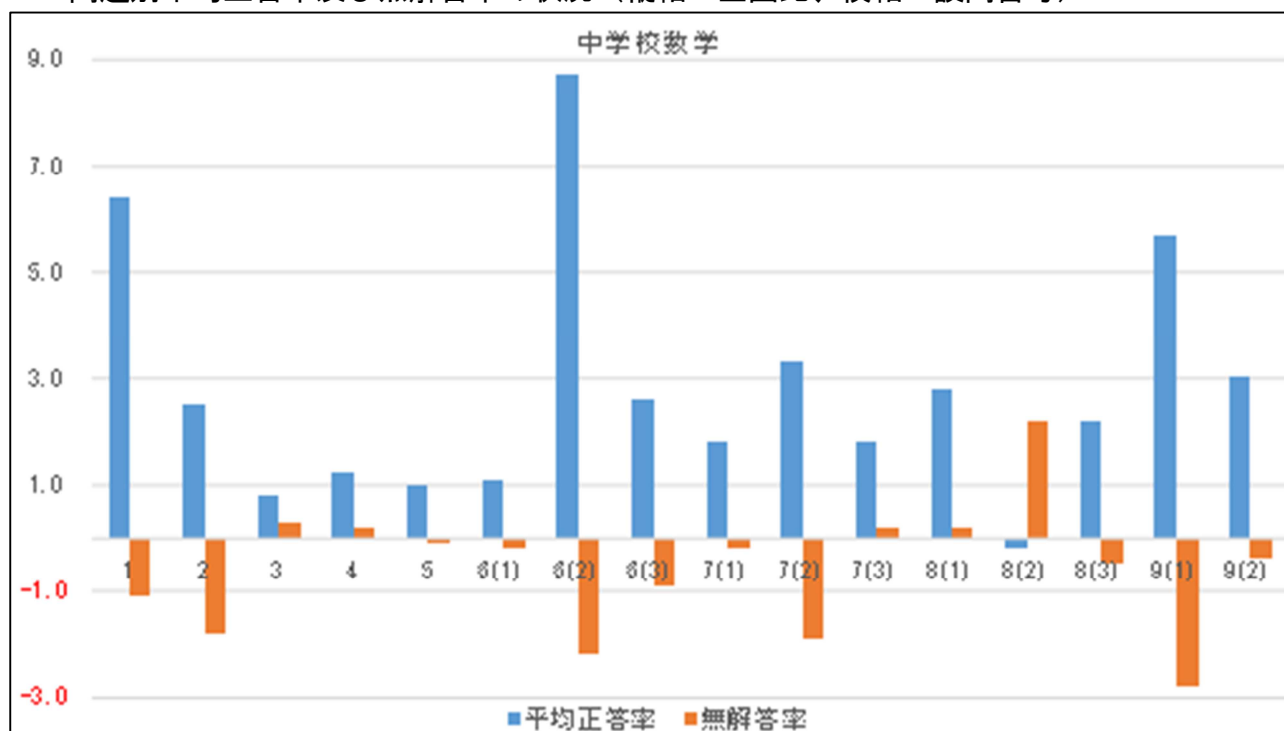
【中学校数学】

1 調査問題及び結果の状況

中学校数学は、領域の「A 数と式」から5問、「B 図形」から3問、「C 関数」から4問、「D データの活用」から4問の、計16問が出題された。また、出題形式は選択式が5問、短答式が6問、記述式が5問であった。

結果は、全領域等で全国の平均正答率を上回った。「C 関数」「D データの活用」領域の一部の問題においては、課題が見られた。

2 問題別平均正答率及び無解答率の状況（縦軸：全国比、横軸：設問番号）



- ・平均正答率は、全体的に全国を大きく上回っている。
- ・無解答率は、問題8（2）が全国よりも高いが、全体的には全国と同等である。

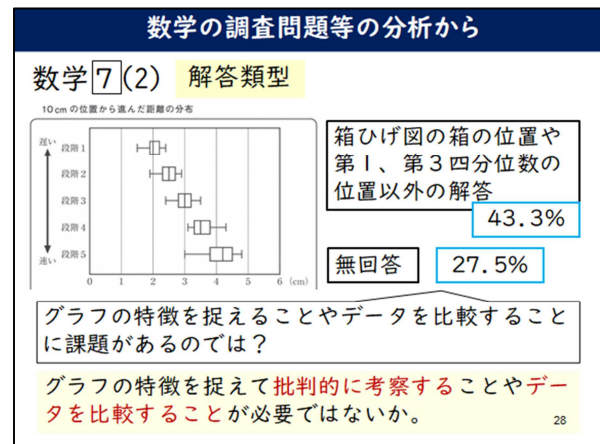
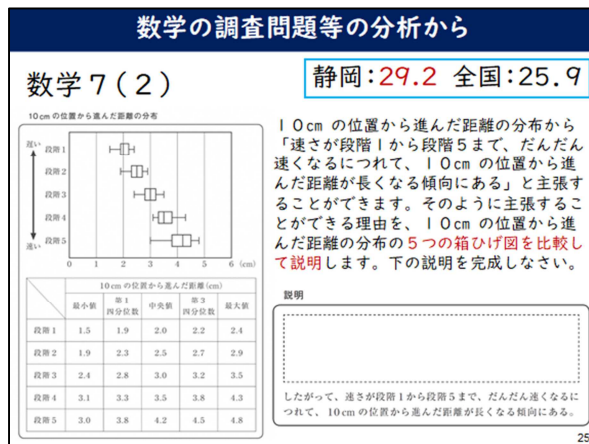
3 課題の見られた問題

問題番号 領域 問題形式	正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	静岡県	全国		
7（2） [D] 記述式	29.2	25.9	車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる
8（2） [C] 記述式	16.9	17.1	18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる

4 授業改善に向けて

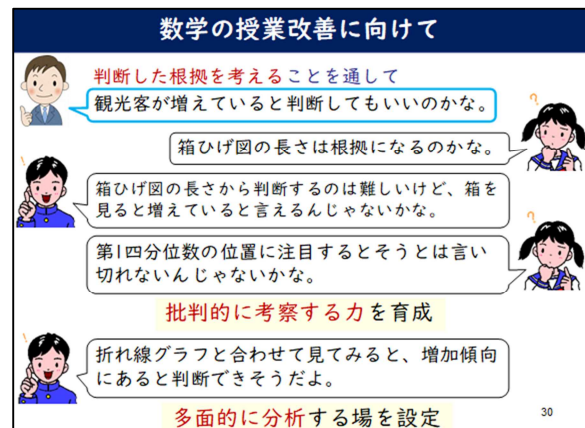
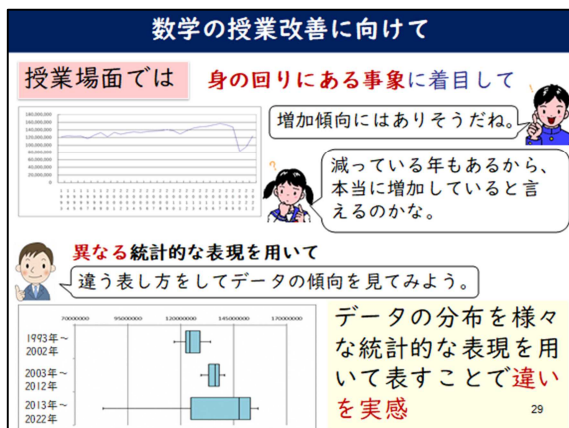
問題7(2)は、複数のデータを箱ひげ図に表して考察する問題であり、複数のデータの分布の傾向を比較し、判断の理由を説明することができるかどうかをみることをねらいとしている。理由の説明については、箱ひげ図の箱の位置に着目する、または、第1四分位数と第3四分位数がだんだん大きくなっていることに着目して理由を記述することが求められている。

学習指導要領解説では、数学科の目標(2)の中で、数学を活用して事象を論理的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養うこととされている。また、学習にあたっては複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較し、批判的に考察して判断する力などを養うこととされている。



この問題の解答類型や無解答率から、統計的な表現の特徴を捉えること、複数のデータを比較することに課題があり、様々なグラフの特徴を捉えて批判的に考察することや複数のデータを比較することが必要だと考えられる。

授業場面では、身の回りの事象に着目し、既習のグラフを用いて考察していく中で、異なる統計的な表現で表すように投げ掛けることで、箱ひげ図との違いを実感することにつながると考えられる。また、判断した根拠について問い返すことで、判断の根拠を箱の位置や四分位数を用いて説明することにつながると考えられる。根拠を明らかにして説明する中で、データの傾向などを捉えて、批判的に考察することも期待される。また、データの分析においては、一つの統計的表現だけでなく、必要に応じて他の表現などと合わせて考察するなど、多面的に考察する場を設定することが考えられる。



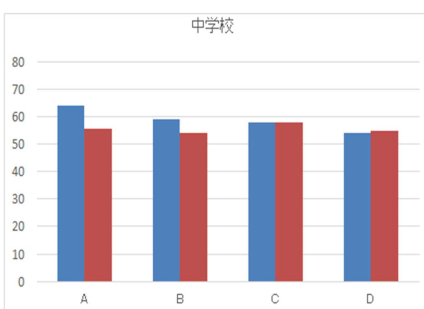
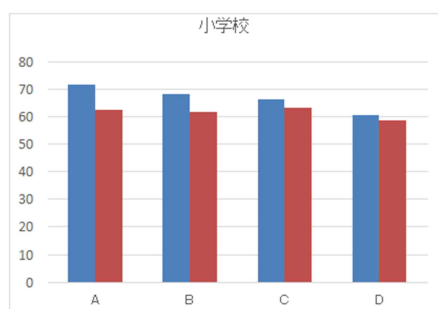
(3) 質問調査の結果分析

- 1 学力調査と学習状況調査のクロス集計から、学習に対する興味・関心等と教科調査の結果には、多くの項目で一定の相関関係があることが明らかになった。中でも、各教科の勉強が大切だと思っている児童生徒の平均正答率が高いことから、授業等を通して、各教科の勉強が大切だと実感できる手立てが必要だと考えられる。

○国語の勉強は好きですか

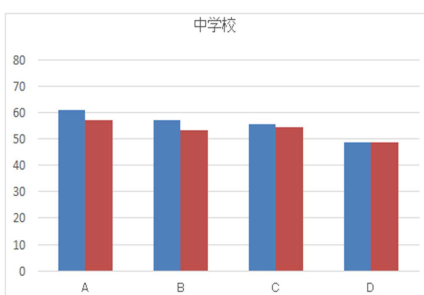
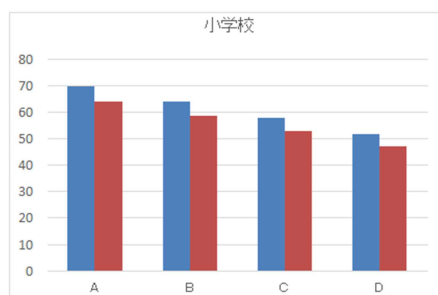
選択肢 A:当てはまる B:どちらかといえば、当てはまる C:どちらかといえば、当てはまらない D:当てはまらない

凡例 ■国語 ■算数・数学



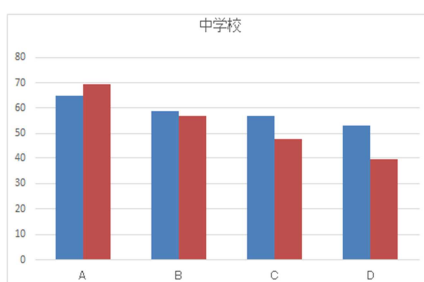
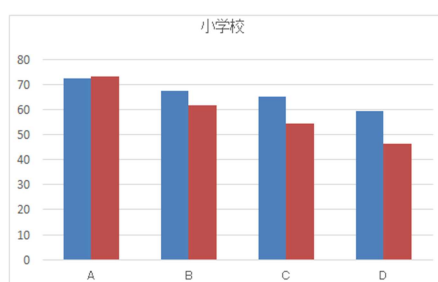
小学校及び中学校の国語の結果には、一定の相関関係があるが、算数・数学の結果には相関関係が見られない。

○算数（数学）の勉強は好きですか



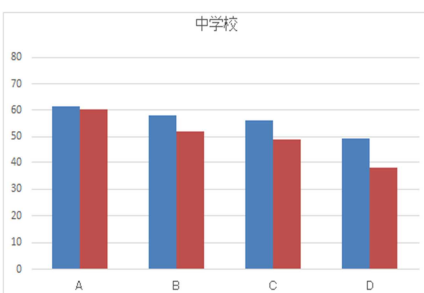
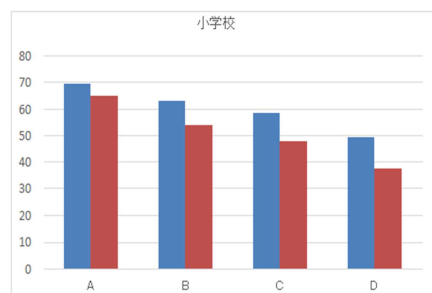
小学校の国語及び算数で強い相関関係が見られる。中学校の国語及び数学は、弱い相関関係が見られる。

○国語の勉強は大切だと思いますか



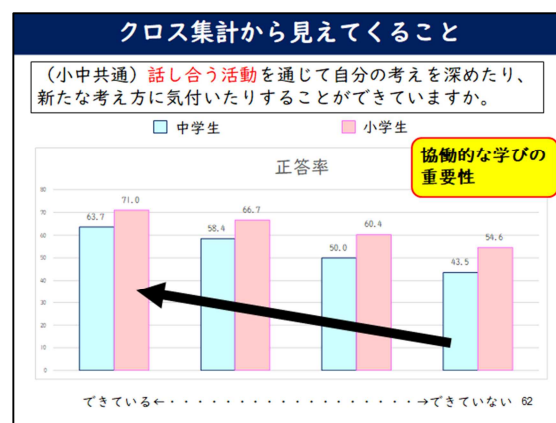
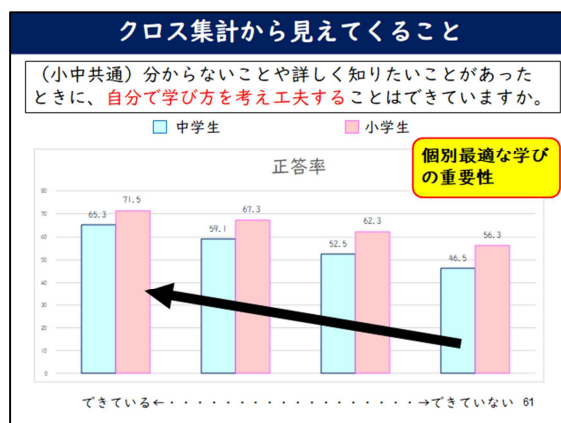
小学校及び中学校の国語で、一定の相関関係が見られ、算数・数学では、強い相関関係が見られる。

○算数（数学）の勉強は大切だと思いますか

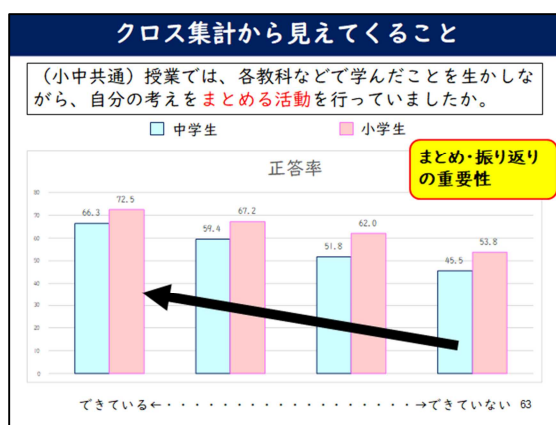


小学校及び中学校の国語で、一定の相関関係が見られ、算数・数学では、強い相関関係が見られる。

2 「個別最適な学び」や「協働的な学び」に係るクロス集計の結果から、一定の相関関係が見られた。自分で学び方を考え工夫することができていると回答している児童生徒や話し合う活動で自分の考えを深めたり新たな気づきを得たりしていると回答している児童生徒ほど正答率が高くなっており、個別最適な学びと協働的な学びの大切さが伺える。



また、自分の考えをまとめていると回答している児童生徒や、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる児童生徒ほど、正答率が高くなっており、授業のまとめや振り返りを適切に行うこと、児童生徒が自分から取り組みたいと思えるような課題を授業で取り上げること、資質・能力を育むために効果的であると考えられる。



○授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

選択肢 A:当てはまる B:どちらかといえば、当てはまる C:どちらかといえば、当てはまらない D:当てはまらない

凡例 ■国語 ■算数・数学

